

校長室から

校長室だより 第8号
令和4(2022)年1月7日発行
文責 宮城県宮城野高等学校
校長 佐藤 誠



新しい一年「2022年・令和4年」がスタートしました！

12月24日(金)の全校集会を区切りとして冬季休業に入り、本日1月7日(金)に冬季休業明けの学校再開となりました。一年前の冬よりもさらに厳しい寒さの年末年始となり、正月前後には降雪もありました。職員の仕事始めとなる1月4日(火)に積雪が多かったらどうしようかなどと心配もしていましたが、幸い正月明けは雪もさほど積もらず、平穏な年明けを迎えることができました。

新しい年2022年・令和4年の干支は「トラ年」ということで、年末年始のテレビや新聞を始めとして、各地の動物園などの「トラ」ネタが多く取り上げられていました。ちなみに、仙台の八木山動物公園でも「ダマイ」という名前の雌のスマトラ・トラが、1月5日(水)から新しく一般公開されたそうです。

実は、何を隠そうこの私佐藤誠も「トラ年」生まれの年男です。そして干支が一巡りする60歳・還暦を迎える年でもあります。その意味でも、今年の年始はいつもより少し感慨深いところがありました。

年始のテレビ番組で、「虎」と「寅」の漢字の意味の違いについて解説していましたが、「虎」は動物としてのトラを意味し、「寅」は干支・十二支のトラ年の場合に使い、本来は方角を指すとのことでした。

さて、では、その「干支」について、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。

「干支(えと)」とは、十二支と十干を組み合わせた暦の数え方を指します。十二支は「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の十二の動物で表されますが、その順番と由来については動物たちの競争の物語が良く知られていますね。知らない人は、この機会に物語を調べてみましょう。本来は十二支は方角、そしてそこから12の月と時刻を指すものとして使われ、覚えやすくするために動物を当てはめたとされています。時刻で、深夜を指す「丑三つ時」などという言い方はここから来ています。

十干は、中国古来の陰陽五行思想が由来で、「木・火・土・金・水」の自然界を構成する五要素(五行)を、「陰」と「陽」、日本では「兄(え)」と「弟(と)」に分けて日曆に使ったもので、「えと」は本来は「兄(え)弟(と)」です。「木の兄=きのえ(甲)」「木の弟=きのと(乙)」「火の兄=ひのえ(丙)」「火の弟=ひのと(丁)」「土の兄=つちのえ(戊)」「土の弟=つちのと(己)」「金の兄=かのえ(庚)」「金の弟=かのと(辛)」「水の兄=みずのえ(壬)」「水の弟=みずのと(癸)」となります。と、ここまで来ると、どこかで聞いた・・・と感じている人も多いかも知れません。そう『鬼滅の刃』の鬼殺隊の階級はこれに基づいています。十干の10個を日に当てはめた10日間を「一旬」と呼び、ここから「初旬・中旬・下旬」の呼び方が生まれました。

そして、十干を順に並べたものに十二支を順に当てはめると、十干で6巡、十二支で5巡すると最初に戻るようになります。つまり60通りの組み合わせができることになり、これが最初に戻ることから「暦としての一サイクル60年=還暦」という考え方が生まれました。

ここで、社会科教員の色を出したいと思います。十干十二支の組合せ、つまり干支に基づく歴史的事件名も多くあり、日本史なら庚午年籍(670)や壬申の乱(672)、戊辰戦争(1868-69)や壬申戸籍(1872)他、中国近代史なら甲午農民戦争(1894)や戊戌の政変(1898)、朝鮮史なら壬午軍乱(1882)や甲申政変(1884)等、受験生なら必須の事項ばかりですね。この機会に、知識の連鎖を広げましょう。

<コロナの中にあっても、生徒諸君の活躍が止まることはありません!!>

さて、12月24日(金)の冬季休業前の全校集会は各教室での生徒参加とし、大講義室からの放送と映像配信の形で実施しました。校長講話の前に、賞状伝達を行いました。たくさんいる各種の表彰対象者の中から代表となる生徒諸君に大講義室に集合してもらい、私からそれぞれに賞状を授与しました。具体の表彰の内容は、下に紹介しています。対象の皆さん、受賞おめでとうございます。

【賞状伝達：表彰項目紹介】

- 第16回西会津国際芸術村公募展2021 (主催:西会津国際芸術村) 以下、美術科
青少年の部 大賞(2年)・日本リトアニア友好協会賞(2年)・福島民友新聞社賞(2年)・佳作(1年)
- 令和3年度明るい選挙啓発ポスターコンクール (主催:公益財団法人明るい選挙推進協会・宮城県選挙管理委員会・仙台市選挙管理委員会) 以下、美術科
 - 仙台市：金賞(2年)・県へ推薦 →宮城県：県1位・全国へ推薦 →全国：審査中
 - 仙台市：銀賞(2年)・県へ推薦 →宮城県：県佳作
 - 仙台市：銀賞(2年)・県へ推薦 →宮城県：県佳作
 - 仙台市：銅賞(2年)・県へ推薦 →宮城県：県2位・全国へ推薦 →全国：審査中
 - 仙台市：銅賞(2年)・県へ推薦 →宮城県：県佳作
- 第58回宮城県芸術祭・彫刻公募展 (主催:公益社団法人宮城県芸術協会) 以下、美術科
一般の部 奨励賞(2年)・入賞(2年3名)
- 第15回東北の建築を描く展 (主催:東北工業大学建築学部建築学科)
高校の部 学長賞(美術科2年)・優秀賞(美術科1年)・特別賞(美術科2年2名)・審査員賞(美術科2年)
入選(普通科3年1名、美術科3年1名・2年5名・1年7名)
- 第65回宮城県高等学校社会科生徒研究発表会 (主催:宮城県高等学校社会科教育研究会)
優秀賞 発表題「オシラサマはどこから来た？」(総合学科3年)

- カードアート大賞展2021（主催:星槎道都大学美術学部デザイン学科）以下、美術科
奨励賞(2年2名)
- リキテックス・ザ・チャレンジ2021（主催:リキテックス）以下、美術科
学生の部 リキテックス賞(2年)・小池アミーゴ賞(2年)・入選(2年2名)
学校賞（※2年連続）
- 高校生デッサンコンクール2021（主催:東北生活文化大学・東北生活文化大学高校）以下、美術科
優秀賞(3年)・佳作(3年4名・1年1名)・入選(3年2名・2年6名・1年1名)
- 修学旅行(教育旅行)実施に際しての感謝状（主催:JTB協定旅館ホテル連盟青森支部）
対象：学校（2年次）

【その他】

- 第38回植物画コンクール（主催:国立科学博物館(筑波実験植物園)）以下、美術科
中学生・高校生の部 佳作(10点中)(2年)・準佳作(20点中)(2年2名)
特別奨励賞（学校表彰）

また、全校集会で話しした講話の内容を掲載します。あらためて一読ください。

<p style="text-align: center;">令和3年度 冬季休業前全校集会 講話</p> <p>皆さんこんにちは。校長の佐藤誠です。</p> <p>令和3年・2021年も残すところ1週間ほどとなりました。振り返ってみて、生徒の皆さんにとって、4月からこれまでの学校生活は充実していたでしょうか。</p> <p>今年度も、コロナの影響から、さまざまな学校行事が日程変更や内容変更を余儀なくされました。その中でも、内容が大幅変更とはなりませんが体育祭を実施し、先日は方面や内容も変更になりましたが2年次の宿泊研修旅行を実施、美術科でも2年次京都研修旅行・1年次青森研修旅行、そして1年次の各HR遠足を実施することが出来ました。</p> <p>昨年度は、ほとんどの行事が中止となったことを考えると、ここまでやれて良かったと考えています。参加した1・2年次の生徒の皆さんは、何か一つでも新しい発見に出会えましたか、友人の良さを一つでも見つけることが出来ましたか。ぜひ新たな発見や気づきを、これからの学校生活に生かして欲しいと思います。</p> <p>3年次の皆さんには、進路決定本番の時期となり、苦しい時間を過ごしている人も多いと思います。ですが、今が頑張り時です。</p> <p>ひとつ考え方のヒントをお話しします。今、それなりに時間を使って勉強しているのに、成績の向上が目に見えない、と感じている人がいるかもしれません。これは、あるスキル向上のためにトレーニングを続けているのに、成績の向上が見えない状態、つまり「プラトー現象」と考えることが出来ます。</p> <p>グラフをイメージしてください。スポーツ競技にも見られるように、スキルの向上は、直線による右肩上がりには進みません。まるで階段のように、平行線の時期が続き、一気にレベルアップする、を繰り返して、だんだん右肩上がりになっていく、というイメージです。</p> <p>同じような停滞した状態に、「スランプ」がありますが、スランプとはそれまで出来ていたことが出来なくなる状態を指すため</p>	<p>右肩下がりの方向になるのに対して、「プラトー」は新しいことが出来るようにならない状態を指すためあくまで右肩上がりの方向にある、という違いがあります。この「プラトー」の、平行線を描いてレベルが上がらない時期は、いわば力を蓄えている時期と理解することも出来ます。</p> <p>大切なことは、この力を蓄えている平行線の時期に、トレーニングつまり勉強をやめてしまえば、その後に来るはずだった飛躍のレベルアップは訪れない、ということです。苦しいのは、そのレベルアップがいつくるのか、本当に来るのか、確証を得られない点です。しかし、これから受験本番を迎える皆さんにとって、その不安から逃げてはいけません。自分の受験本番当日まで、さらには試験時間の直前まで、最後まであきらめずに、取組を続けて欲しいと思います。自分の力を信じましょう。</p> <p>もう一つ、「理解」と「暗記」に関するアドバイスを、帰りのHRで配付される「校長室だより」に掲載しましたので、参考まで読んでみてください。</p> <p>3年次の皆さんは、この12月が終わると、宮城野高校生として過ごす時間が、残り2ヶ月間ということになります。すでに卒業後の進路先の内定を確保した人も、卒業までの2ヶ月間、ぜひ自分自身の学力の向上はもちろんのこと、人間としてのレベルアップができるような時間を過ごし方を心がけて欲しいと思います。</p> <p>これから受験本番を迎える人は、まずは健康管理に注意して、自分の力をしっかり発揮できるよう、準備を進めてください。</p> <p>最後に、1・2年次の皆さんも含めて、新型コロナウイルスの新しいオミクロン株の感染も各地で見られるという情報もあります。引き続き、感染予防対策には十分気を配って、元気に新年最初のHRを迎えられることを、願っています。</p> <p>以上で、冬休み前の全校集会でのお話を終わります。</p> <p style="text-align: right;">令和3年12月24日 校長 佐藤 誠</p>
---	---

学校花木散歩 その8 「パンジー」他 ～緑化ボランティアのお陰です～

この寒空の中、本校の校地内でおそらく唯一花を咲かせていると思われる植物が、生徒昇降口前に9個置かれた白いプランターに植えられている「パンジー」だ。年末年始の寒さと降雪のために、今はさすがにしおれて枯れかかっているようにも見えるが、それでも季節柄、モノトーンが広がる中であっては、貴重な彩りを提供している。これは、本校の特色の一つである“生徒会や委員会を置かない”中で、生徒有志が集って活動する「生徒ボランティア」の一つ「緑化ボランティア」に所属する生徒諸君が植えて、かつ水やり他の面倒を見ている草花である。

この昇降口前のプランターには、これまで季節にあっという間の花が植えられ、それぞれの季節毎に目を楽しませてくれた。春にはチューリップが色とりどりの花を咲かせ、夏には、東京オリンピックのメダリストに授与されたブーケにも使われた、丈が短く花も小振りのヒマワリが人を迎えるように花を咲かせ、まさしくタイムリーな雰囲気を醸し出してきていた。そして秋からは、このパンジーが冬の寒さにも負けじと花を咲かせている。

パンジーの花がいつまで咲いているかは分からないが、少なくともこのパンジーが自然発生的に花を咲かせているのではないことは、ぜひ生徒諸君には知っていて欲しい。そして、緑化ボランティアの皆さんに感謝したい。